



学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

えんがわ
縁側からみる日本人の感性



家の中と外をつなぐ日本家屋の縁側

校長 中村 誠

4月8日の始業式・入学式より約1ヶ月が経ちました。子どもたちはクラスの雰囲気にも次第に慣れてきて、自分なりのペースで学校生活を送っています。新しい環境の中で本当に頑張っていたと思います。明日からGWです。この期間に心も体もリフレッシュして5月に元気に学校に来てほしいと強く願います。

さて、日本家屋の代表的な空間に「縁側」があります。縁側とは家の中と外をつなぐために作られた空間で、CMやアニメでも見られることがあります。最近の住宅に設置されることは少なくなってきたが、海外の方からは「日本独特の文化で素晴らしい空間」として、高い評価を得ています。ちなみに、お寿司屋さんのネタなどにある「えんがわ」は、魚のカレイやヒラメの部位がこの日本家屋の縁側に似ているため、この名前が付けられました。

そもそも縁側という空間は、平安時代に貴族たちが家の中から外の庭園を眺めるための場所として利用されました。それが江戸時代には庶民の家にも広がって、家族や近所の人々が集まる憩いの場としても活用されるようになり、明治時代以降には日本家屋の代表的な空間として定着したのです。家の中と外をつないで自然との一体感を感じられる縁側は、日本家屋の伝統的なデザインとして親しまれ、その美しさから温かみのある雰囲気を作り出します。このような空間を作り出す日本人の繊細な感性が、世界でも高い評価を得ているのです。

現代社会で遭遇する様々な場面において「白か黒か?」「右か左か?」「良いのか悪いのか?」などという二者択一の状況となる場合が多いといつても過言ではありません。しかし、複雑な事情や背景を鑑みると、二者択一では結論付けられないこともあります。そんな時、内と外をつなぐ「縁側」のような第三の選択肢が必要になるのではないでしょうか。また、効率を重視したり、結論を急いだりする目まぐるしい情報社会の中で、内側にも外側にもすぐいける「縁側」となる場所で一息つき、俯瞰して考え行動する余裕が求められているのではないかとも思っています。

現在、学校教育で進めている教育課程(カリキュラム)は「カリキュラム・オーバーロード」と言われ、子どもに過度な負担を課していると問題視されています。本校では、その解消に向け、学習の量より質へ転換する取り組みを進めております。学習の質を高めていくためには、決まった方法や環境だけで学ぶのではなく「縁側」のようなつなぐための選択肢があったり、学ぶペースを一人一人に合わせ、時には「縁側」で一息つきながら、俯瞰して考え方行動したりする機会を確保できるよう考えております。具体的な方策等については、順次ご説明をさせていただきます。

日本家屋の縁側を生み出す奥ゆかしくも繊細な日本人の感性を子どもたちがみにつけていけるよう日々、取り組んでまいります。今後とも御理解と御協力をお願い申し上げます。